

元和5年（1619）6月2日、広島藩主福島正則は広島城を無許可で増築したとして、安芸・備後の所領49万8千石余を没収されることとなりました。

直ちに幕府より、広島城受け取りの上使として永井直勝と安藤重信が命ぜられますが、万一の争乱に備えて、西国に詳しい毛利秀元・加藤嘉明をはじめ、中国・四国の大名が派遣されることになり、森忠政・本多忠政・松平（蜂須賀）至鎮・松平（池田）忠雄・生駒正俊・松平（山内）忠義らもその命を受けました。一大名家の取りつぶしによる城受け取りにしては、そうそうたる国持ち大名による大軍勢でした。万一の用心としながらも、幕府の持つ危機感の大きさを物語っています。

6月9日、江戸で広島派遣の命を受けた忠政は、直ちに津山にいる伯父の森可政へ書状を送っています。そこには、中国・四国を中心として多くの大名が広島に派遣されることになり、忠政も命を受けたこと、そして10日に江戸を出発し、25日には備中に軍勢が勢ぞろいする予定であることが記されています。また、伊豆に「鉄砲之者」を送っているため、津山には鉄砲隊がないので、郡奉行に命じて400人から500人の鉄砲隊と、200人から300人の長柄隊を編成するように指示しています。

6月10日に江戸を発った忠政は、22日に津山へ入り、24日には陣立てを整えて出発しています。鹿田（現在の真庭市鹿田）で一泊した後、予定どおり25日には備中中津井（現在の真庭市中津井）に勢ぞろいしました。このときに忠政から息子の

## 津山城百聞録

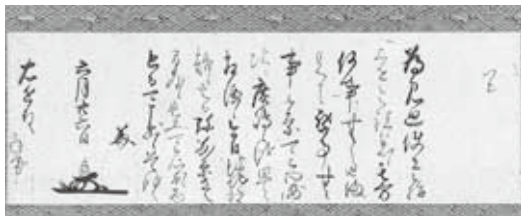
### ～森忠政の広島城受け取り～

忠広にあてた書状では、すべて順調に運んでいることが記されています。

その後、幕府軍と合流した忠政軍は、広島城に向かうのですが『森家先代実録』に伝えられる話では、幕府軍の進み具合の遅さに、勝手に追い越すこともできず閉口したそうです。

一方、広島城では福島家の家臣たちが籠城して一戦に及ぶとの気配もありましたが、結局は家臣たちへの福島正則からの書状により、広島城は無事に幕府上使へ引き渡されました。

この広島城受け取りの後、忠政は福島正則の家臣であった長尾隼人一勝の子を3千石で津山藩に迎えています。長尾隼人は福島家でもよく知られた武将であり、1万3千石を得て東条の城に入っていました。そしてその子もまた優れた武将として知られており、忠政の期待どおり長尾家は、津山藩森家にとって欠かせない重臣となるのでした。



▲忠政が息子の忠広にあてた書状

つやま  
広報

12月



編集・発行（毎月10日発行）  
津山市企画都市長公室（市役所3階）  
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



「男のそば打ち教室」に参加しました。こねる、伸ばす、ゆでるなど悪戦苦闘の末できあがったそばは、硬いのやら腰があるのやら…。そばも人も「つながりの良さ」が大切という、講師の言葉が心に残りました。(元)



年末はいつもバタバタ。正月に入ってから年賀状を書くことも。今年こそは年賀状を早めにプリントして取り掛かりたい！と決意しております。この広報が出るころにはきっと…。今年もご愛読ありがとうございました。(X)



つ・ぶ・や・き  
編集室

今月号の特集は、早寝・早起き・朝ごはん。生活全般が夜型に移行している中、子どもたちに必要な睡眠時間を確保するには、やはり大人が気をつけたいといけませんね。わかっているけどできなかった自分の反省を込めて。(e)



### 10月中のひとの動き

人口	110,997人	(前月比△15)
男	52,960人	(同△18)
女	58,037人	(同+3)
世帯	43,444世帯	(同+23)
転入	279人	転出 279人
出生	86人	死亡 101人

(11月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。